

平成31年度第1回疾病対策部会	資料5
平成31年4月4日	

# 厚生科学審議会疾病対策部会 リウマチ等対策委員会報告書について

○厚生科学審議会疾病対策部会リウマチ等対策委員会報告書概要

○参考資料5 厚生科学審議会疾病対策部会リウマチ等対策委員会報告書

# リウマチ等対策委員会報告書概要(平成30年11月)

<p><b>背景</b></p>	<p>◎ 関節リウマチについては、患者数等に関する情報は十分に把握されておらず、また、その病因・病態は未だ十分に解明されていない。一方で、メトトレキサートや生物学的製剤による有効的な治療方法が標準化され、早期診断・早期治療により、疾患活動性を低く保ち、関節破壊を防ぐことが可能となってきた。こうした治療方法の改善等により、患者の高齢化や小児期・移行期・若年成人期など各世代において、診療や生活支援における新たな課題が表出してきた。</p>	
<p><b>新たな課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生物学的製剤については、診療の際の減量、休薬、中止に関する検討が不十分である。(①、③)</li> <li>○ 生活の場でのリウマチの知識不足により、<u>周囲からの理解や支援が得られない</u>等の指摘がある。(②)</li> <li>○ 各年代での生活やライフイベントに対する診療・支援に関する指針や人材育成が不十分である。(①、②、③)</li> </ul>	
<p><b>対策の全体目標</b></p>	<p>リウマチ患者の疾患活動性を適切な治療によりコントロールし、長期的なQOL(生活の質)を最大限まで改善し、職場や学校での生活や妊娠・出産等のライフイベントに対応したきめ細やかな支援を行う。</p>	
<p>対策の柱</p>	<p>テーマ</p>	<p>主な取組の方向性</p>
<p>① 医療の提供等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療連携体制のあり方</li> <li>・診療の標準化・均てん化</li> <li>・年代に応じた診療・支援の充実</li> <li>・専門的なメディカルスタッフの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般医療機関から専門医療機関等への紹介基準の作成と普及</li> <li>・診療連携体制を推進するため、モデル事業の実施</li> <li>・診療ガイドラインの普及による診療の標準化</li> <li>・専門的な医師の地域偏在、診療科偏在の解消</li> <li>・仕事、学校生活等の生活や妊娠、出産等のライフイベントの際の課題に配慮した診療ガイドラインの充実</li> <li>・薬剤師、保健師、看護師、理学療法士等に対する研修等を通じた治療や生活支援等に関する専門的な知識や技能を持つ人材の育成</li> </ul>
<p>② 情報提供・相談体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、治療、制度等の正しい情報の普及</li> <li>・相談体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国と地方公共団体、関係団体、企業、学校等が連携した、医療従事者、患者を含む国民全体への正しい認識や情報の普及</li> <li>・相談員養成研修会の充実</li> <li>・ピアサポートの充実、強化による相談体制の充実</li> </ul>
<p>③ 研究開発等の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学研究の充実</li> <li>・発症の根源的なメカニズムの解明</li> <li>・発症前からの医学的介入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数、年齢分布、合併症、副作用等とライフステージ別の診療や生活の実態把握</li> <li>・リウマチの治癒または予防に関する研究の推進</li> <li>・発症ハイリスク集団への発症前からの医学的介入</li> </ul>

# リウマチ対策の全体像

